

令和 4年 3月

松井幸子 学位論文審査要旨

主 査 松 浦 治 代
副主査 谷 村 千 華
同 片 岡 英 幸

主論文

Factorial structure of nursing practices related to support for decision-making regarding consent for surgery in elderly patients with dementia

(認知症高齢者の手術同意への意思決定支援に関わる看護実践の因子構造)

(著者：松井幸子、山本美輪)

令和4年 Yonago Acta Medica 65巻 70～81頁

参考論文

1. Nursing support for decision-making about surgery as currently offered to elderly patients with dementia

(認知症高齢者の手術同意への意思決定に関わる看護援助の在り方)

(著者：松井幸子、山本美輪、三好陽子)

平成29年 International journal of Japanese nursing care practice and study
6巻 7頁～23頁

審査結果の要旨

近畿地域の整形外科病棟に勤務する看護師に自記式質問紙調査を行い、認知症高齢患者の手術同意における意思決定支援に関わる看護実践の因子構造を明らかにした。観測変数29項目を用いて探索的因子分析を行った結果、5つの因子【医療者協働による認知症高齢患者のアドボカシーの実現】【患者・家族の生活・価値観を考慮した助言】【認知症高齢患者の理解を深める支援】【認知症高齢患者の意思表出支援】【認知症高齢患者のICへの立ち会い】が抽出された。Cronbach's α 係数、因子負荷量などの結果から、因子構造の信頼性と構成概念妥当性が示された。認知症高齢者への意思決定支援の特徴として、認知症疾患別の症状や患者の主観的体験を知ることの重要性が示された。認知症高齢患者の特性に応じた意思決定支援の看護援助の因子構造が明確になったことは本論文の新規性であり、保健医療分野で明らかに学術水準を高めたものと認める。